

嶋

次

郎

はなはち、  
さくらさくら。

間。創作BL  
小説家×美少年

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

おそろしく



美しい子

美しい無垢な  
こどもは弱き  
人間の心の臓を  
ひと突きにする

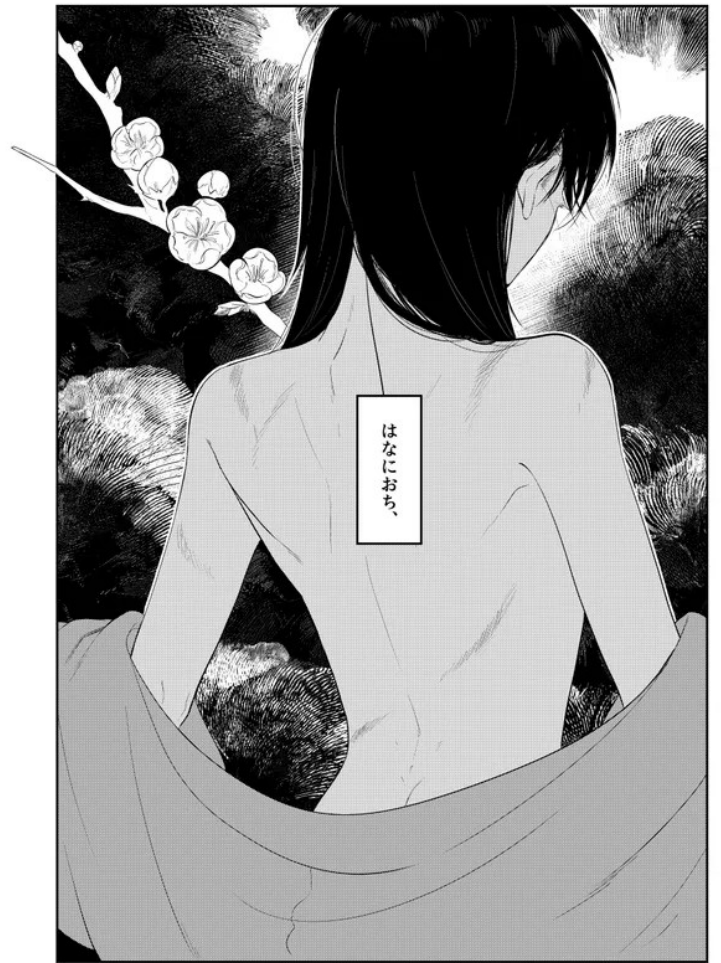
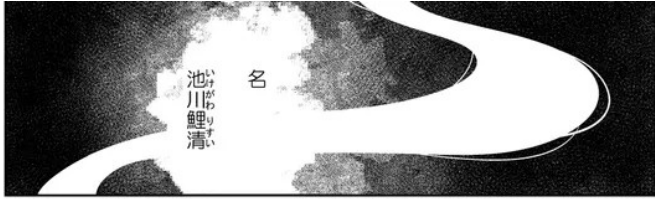


深く刺さった  
それは脳の  
奥まで痺れさせ

私は逃げ場を  
なくしたのだ



この作品はフィクションです。  
未成年の閲覧禁止。





お疲れさま  
です

少し休憩  
しませんか？



小説家

といえは  
聞こえはいい  
だろう

私はただ  
他人と深く関わるのが  
ひどく億劫であった  
ものだから

二日のほとんど  
机に向かい  
没頭する行為は  
単純に



「生きやすかった」  
それだけだ

全てから逃げるように  
空想を重ねるのは  
悪くなかった  
物を書くのは  
趣味のそれであったが

幼少より  
断りきれない  
性格も相まって  
知り合いの勧めに乗り  
執筆を続けていた



ひとりこのちいさな机で  
その時が来るのをただ待っている  
の  
時  
が  
来  
る

た  
いたー

私の人生は  
それだけだ

思っていた

先生



ずぶ濡れの  
こともが家に  
飛び込んできて  
働きたいと言っ  
つ

熱心なファンが  
弟子にしてくれと  
おしかけてくる  
ことは多々あったが

彼女は  
少しだけ毛色が  
ちがった



ゆっくり湯に  
浸かっておいで

話は明日  
聞こう



あ  
あのっ

私はもう  
寝るから

お腹が  
すいてるなら  
台所を  
使いなさい  
あと客間に  
布団が  
あるからね



ありがとう  
ございます

ですが  
先生……

おやすみ



参った  
こんな夜更けに  
女の子がひとり

……住み込み  
と  
言っていた

事情がある  
のだろうか

いや



ダメだな私は  
すぐこうだ

できるだけ  
人に  
関わら  
ない  
というの  
に

大丈夫  
明日断ればいい

カウ

……ん



















すっかりと忘れていた  
お家からも世がらもひとり逃げ出してきた  
私は心安らぐとこの小さな庭のために  
幾ばくかの小銭を積み集めてどうにか移り住んできた  
というのに

すっかりと

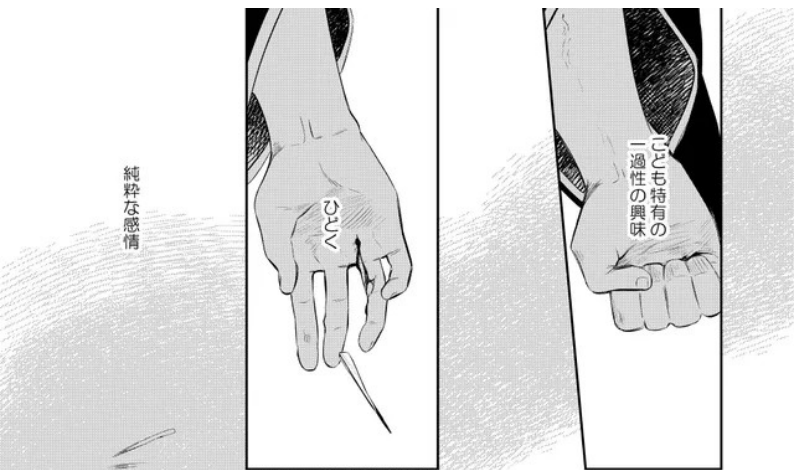


人と接するのは面倒だと逃げていたばかりに

こついうときひとく言葉に詰まる

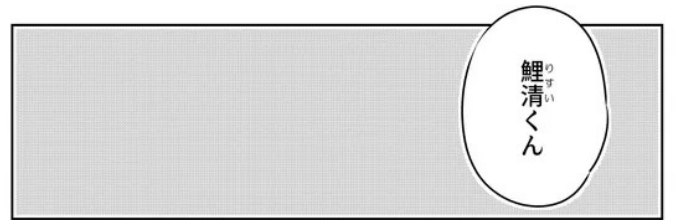
紙の上ならいくらでも出てくるというのに

深く関われば  
余計な情がわいてしまう





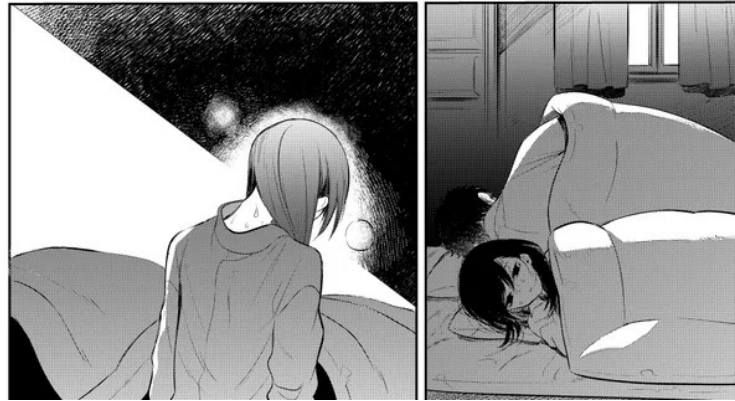
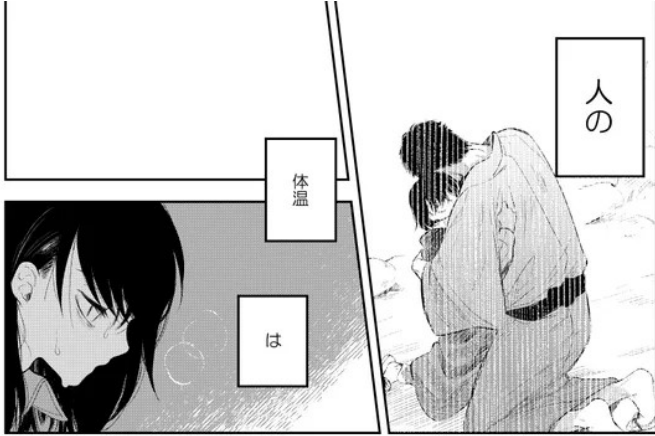


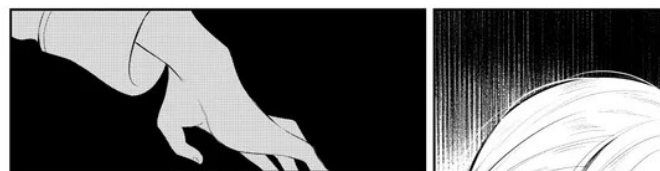


花に墮ち、









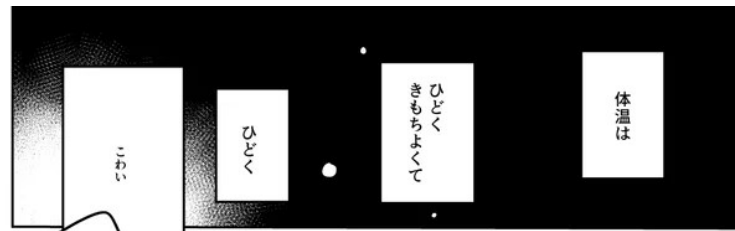
















空っぽのおねは  
酔いしれる  
ように

溺れるのは 必然で

これが  
俺のゆいっつ

池川鯉清？



池川鯉清に  
出逢った！

なんて美しく  
退廃的で

幼い俺には  
はじめての世界

その甘みさは

やわい背骨を  
撫で上げていく



あわれだ

作り上げた  
「母」に逃げて  
俺は  
良かったのに

父は  
屋根裏に  
消えた

恨む気持ちも  
ないままに

あるのは  
喪失感だけ

抜殻に  
なっていた  
そんなとき





鯉清くん

どんな感情が  
わいても  
かまいません

書くことだけは  
やめないで

それだけは  
すっただいじに  
持っていて  
ください



何故

忘れて  
いられた

目の前の  
苦痛にだけ  
没頭して

撫でてくれた人など  
他にやしなかつたの

人は…

どこかで  
繋がっていて

それはまた  
意図せず人を  
生かし…



おばあさま  
知ってるの？

この  
ひとり息子さん  
だったわね

おじさんが  
とても可愛  
がってたのよ

あった  
あった

そう言って  
祖母が出て  
くれたのは何通かの  
手紙だった

ええ  
うちと池川さんは  
古い仲でね



待て！

辰之助

君は

フジムラの  
孫か!?



鯉清くん



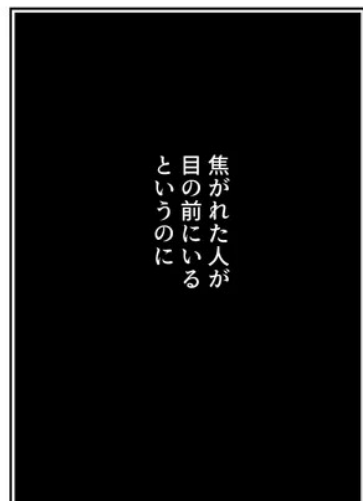
『お礼がしたい』  
なんて  
おこがましい  
だろう

俺もまた  
生かしてくれた  
人に会いたかった



それだけで  
生きて  
いられる

ひとめだけ  
でも見れたら  
それでいい



焦がれた人が  
目の前にいる  
というのに



あの方が...!













いつかの日に  
もうひとつ  
縄を垂らすで

ふたり穏やかに  
逃げ出せれたなら

あれは酷い  
雨の日だった

淡い雪の日  
だった



俺と逃げて  
くださいね

たっ！  
きみ高校生  
だったのか！

せんせえ

JUNK

ひとつき  
されたとて

次は、いつの日だろうか



花に堕ち、  
桜の日。

おわり

初期設定



いけがわ りすい  
池川鯉清

小説家 28歳 185cm  
穏やかで優しいが少し  
臆病。幼い頃の酷い  
教育により  
恐怖感が拭えない。  
深層心理や  
エロティシズムな  
作品を書いているので  
コアなファンがつきや  
すい。  
屋根裏に縄を置いて  
おくことで平常心を  
保ってられる。  
不眠症でくまがひどい。

最初は後ろ刈上げに  
してたけどボサボサに  
変更しました



ふじむら たつのおすけ  
藤村辰之助

17歳 156cm  
普通の家庭に育ったが  
諸々に色々あって  
休学している。  
元は明るく活発な子  
だったが諸々。

献身的な行動は  
依存に近い。  
髪はけっこうすく伸びる。  
実は最後までされたわけではないので、  
えっちは先生がはじめて。

■あどがき

お久しぶりです嶋次郎です。  
ここ数年はギャクがスツケへな  
漫画を描いていたのですが、  
久しぶりに鬱々な感じの話になりました。  
喜怒哀楽、人間の感情が沢山描けて  
楽しかったです。楽しかったです。  
すけへがあんまり入れられなかったのと、  
尺の問題でページ数もすくすく  
カットしたので、まだいつか描けたら  
うれしいな〜と思います。

名前は『鯉の滝登り』の  
竜門滝を  
登り切った鯉は  
龍になれる、という故事  
からです。いわゆる登龍門

鯉清先生は文学の登龍門は登り切ったけど、  
愛情や他人とのかわりには怯えて止を見つめながら  
彷徨っている。そして同じように彷徨っていた  
辰之助と共に登り切り脱する…

みたくないなつかすこいアしてす急な思考低下  
鯉のほりの風習はごも達が良い人生を  
歩めたらいいな〜という愛情でも  
あるかなと  
思ったりしたり。  
先生も人の子なのでごも様です。



鯉清先生と辰之助は恋愛というより依存や  
傷の舐め合いに近い関係かもしれないです。  
愛はひとによって全てでかたが違くと  
思っているので、二人はそのまま静やかに逃げて  
生きていくのもえたらいいなあ  
逃げる、というご  
マイナスイメージが大きいかもしれない  
のですが、もはや生きていくという  
大変なことをしている、良い逃避をするのは  
とっても大事ななと思います。

ここまでお読みくださりまして誠にありがとうございます  
ございました。またすけへやギャクや書物を  
闊歩ごった煮して描いていくかと思いましたが、  
読んで頂けたら幸いです。  
良ければおのなご感想頂けますと  
嬉しいですタグ #花に墮ち 桜の日  
ありがとうございます。

嶋次郎



よまろT②



よまろT③





# 『花に堕ち、桜の日。』

2019.12.

間。

著 嶋次郎

■嶋次郎 Shimajiro  
■pixiv ID:1601653  
■aida.shimaji@gmail.com

この作品はフィクションです  
実在するものとは一切関係ありません  
無断転載、複製コピー、再頒布、禁止  
確認次第ご連絡を差し上げております  
未成年の方の閲覧を禁止しております

Unauthorized reproduction is subject to usage fees.  
未□授权复印将收取□用。